

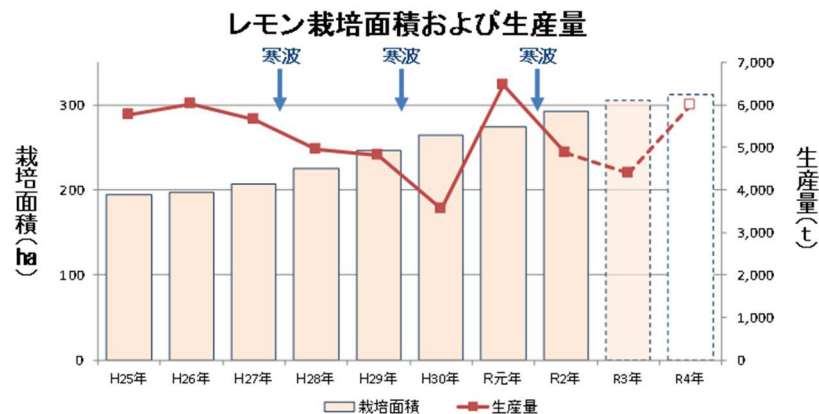
レモンの低温被害防止に向けた取組について

1 要旨・目的

レモンの生産量に大きな影響を与える低温の被害を回避する取組について報告する。

2 現状・背景

レモンの生産量1万tを目指して関係機関とともに生産振興を行った結果、栽培面積が年々増加し、目標の300haに達した。一方で数年に一度、強い寒波に伴う低温の被害により生産量の年次変動が大きく、最大でも6,500tに留まっている。



このため、低温被害を回避する必要があることから、令和2年度に沿岸部及び島しょ部で気温データの収集を行ったところ、沿岸部での安定的なレモン栽培は困難であり、島しょ部においても場所によって気温の下がり方に大きな差があることが判明した。

そこで、令和3年度から令和4年度にかけ、尾道市、三原市の島しょ部及び大崎上島町の38地点で気温の観測を行い、その結果を過去の寒波時における推定気温と組み合わせ、圃場ごとの低温リスクを詳細に示した「収穫優先度マップ」の作成に取り組んだ。

3 概要

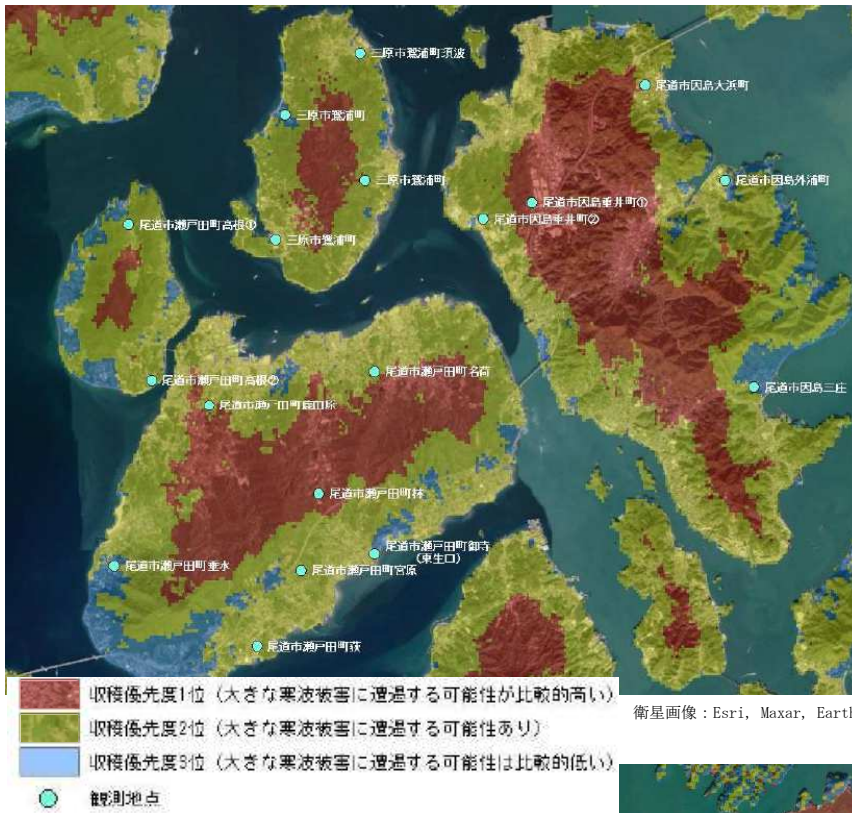
(1) 調査箇所

尾道市（因島，生口島，高根島），三原市（佐木島），大崎上島町

(2) 調査結果

次頁に示すとおり、標高の低い箇所にも黄緑色や赤色（低温遭遇の可能性があり、収穫優先度が高い又は中程度の区域）が分布しており、これまで栽培適地であると考えられてきた地域においても、低温被害を受ける恐れがある圃場が多いことが明らかになった。

ア 尾道市（因島，生口島，高根島），三原市（佐木島）



衛星画像：Esri, Maxar, Earthstar Geographics, and the GIS User Community

イ 大崎上島町



衛星画像：Esri, Maxar, Earthstar Geographics, and the GIS User Community

(3) 課題

「収穫優先度マップ」は推定気温に基づき作成したものであり、実際の低温遭遇時における被害状況と照らし合わせた検証や修正が必要である。

(4) 今後の対応

生産者に対し、産地の研修会や営農指導を通じて「収穫優先度マップ」の周知を図り、優先度の高い地域において、早期収穫や被覆等の低温被害回避対策を推進し、レモンの安定生産を実現することにより、実需者ニーズに応える。

さらに、参入企業が大規模にレモン栽培を希望している江田島市において、農地選定や作業体系の検討材料とするため、「収穫優先度マップ」完成を目指す。